



関東に根を張る

# 北条氏の絆

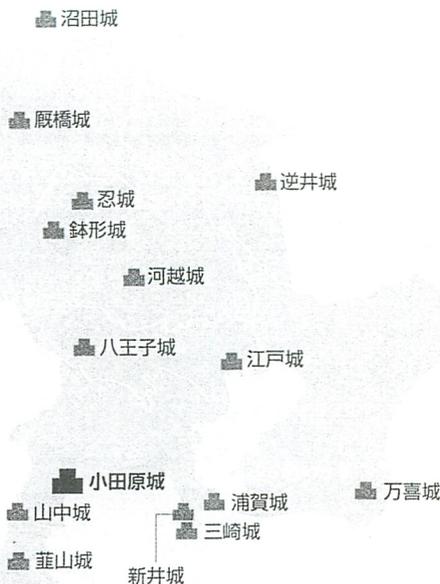
小田原を本拠とし、全盛期には伊豆、相模、武蔵を領国とし、さらに下総から北関東までを席卷した北条氏。その広大な領域を、どのように支配していたのだろうか。

関東に根を張った北条氏の領国支配のシステムを探りながら、最前線の国々にあった城跡を巡ってみた。

文/高橋盛男 撮影/鶴田孝介

## 関東に広がる 北条氏の支配地

四代氏政から五代氏直のころにかけて、北条氏の勢力は最大になる。地図で見ると、ほぼ関東一円を手にしていることが分かる



### 北条氏の地域分権システム

北条氏は、二代氏綱の時代に地域分権システムを構築している。宗瑞の時代には伊豆・相模の2国だった領国が、氏綱の

晩年には武蔵(主に現東京都・埼玉県)半国、駿河(静岡県)半国、下総(千葉県)の一部まで広がった。氏綱は、この領国内の地域ごとに支配の拠点となる城を取り立て、軍団を配置した。こうした城を、小田原本城に対して「支城」と呼んでいた。城主や城代には、その地の軍事を担当させるとともに行政も任せて、領国内

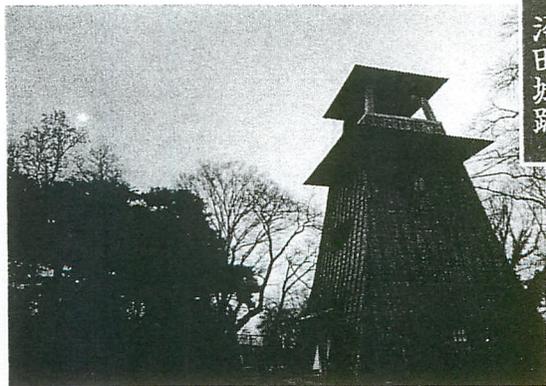
の地域分権化ともいえる領国支配体制を整えていたのである。これを支城制といっている。

支城の担当地区分けが「他の大名と比べると、北条氏の場合は実にきれいに区切られていた」と駿河台大学の黒田教授は言う。この村は何領だとすぐに分かるくらい明確な線引きがされていたのだ。当時、多くの場合、境界分けは明瞭でないものが多く、それが領地争いの原因となり、家臣同士が争う内紛に発展したりすることが多かったのだ。

この地域分権システムが構築されたことで、最盛期には関東一円に広がる北条軍団の団結の礎ともなり、ひいては大名と家臣との固い絆が結ばれることにもつながっていたのである。

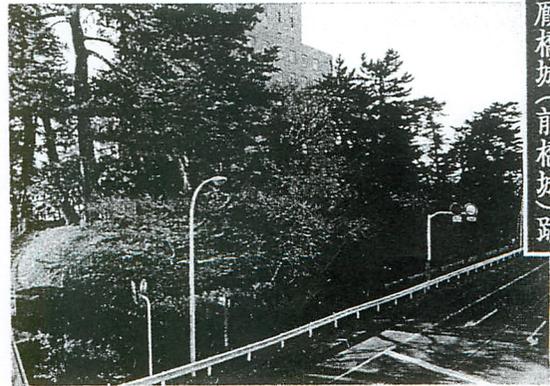


【厩橋城跡】  
群馬県前橋市大手町1-1  
1(県庁)  
西上越新幹線「高崎駅」で  
両毛線に乗り換え「前橋  
駅」からバス「県庁前」下  
車すぐ  
☎027・231・9531(前橋  
市文化財保護課)  
【沼田城跡】  
群馬県沼田市西倉内町  
594  
西JR「沼田駅」から徒歩約  
15分  
☎0278・23・2111(沼田  
市役所観光交流課)



沼田城跡

沼田は北関東の要衝で、戦国時代後期には、上杉氏、武田氏、北条氏、真田氏らの争奪戦の的となった



厩橋城(前橋城)跡

県庁庁舎を囲むように残されている厩橋城の土塁。江戸時代、利根川の氾濫で城は壊れたが、幕末に再建された

## 長尾景春（ながおかげはる）

1443—1514 室町時代の武将。孫四郎・四郎右衛門・右衛門尉（長林寺本『長尾系図』では左衛門尉）・伊玄斎と号す。法号は大雄伊玄。白井長尾景信を父とし、越後府中長尾頼景の娘を母として嘉吉3年（1443）出生。

祖父景仲・父景信は、山内上杉家の家宰として活躍したが、文明5年（1473）6月景信が病死すると、山内上杉顕定は、総社長尾忠景（景信の弟）を家宰とした。

景春は、これを不満として、鎌倉から上野国白井城（群馬県北群馬郡子持村）に退いて伊玄入道と改名。文明8年6月、景春は武蔵国鉢形城（埼玉県大里郡寄居町）に拠り、古河公方足利成氏と通じて、上杉顕定に叛いた（長尾景春の乱）。

文明9年正月、景春は、武蔵国五十子（いかっこ、埼玉県本庄市）の上杉顕定・扇谷上杉定正の陣を攻撃し、顕定らは那波（群馬県伊勢崎市堀口町）へ敗走した。景春方に参加したのは、祖父景仲以来長尾氏に培われた西上野の在地領主（国人層）であり、長野為兼（「当國中一揆の旗本長野左衛門尉為兼」（『松陰私語』五））を中心に景春被官の武士宝相寺・吉里など、これに武蔵・相模の武士たちを合わせて2、3千人に及んだ。戦場は、武蔵国から上野国に移り、山内上扇谷両上杉は協力して景春と戦った。扇谷上杉氏の家宰大田道灌は江戸城にいて、武蔵・相模の景春党を討ち、同年4月平塚（東京都北区）の豊島泰明を攻略、つづいて石神井城も落とし豊島氏を没落させた。

同年7月この状況の中で足利成氏が景春支援のため上野の滝（群馬県高崎市上滝町）へ出陣。上杉方は、白井城へ退いた。同年12月成氏軍が北上し、上杉方も白井城を出て広馬場（北群馬郡榛東村）で対陣中、俄に大雪が降り合戦が中止された。この直後に、足利成氏と上杉顕定・同定正の間に和議が成立した。

和議成立後も武蔵国において両派の小競合が続き文明10年7月、太田道灌が鉢形城の景春を急襲して落城させた。管領上杉顕定を鉢形城に迎えて相模・武蔵・上野より成氏・景春の勢力を一掃した。

乱後、両上杉の対立は深まり、文明18年太田道灌が暗殺され、両上杉の間で戦となった。景春は、扇谷上杉定正方について山内上杉顕定と戦った。両上杉の戦は20年に及び、永正2年（1505）和睦した。

永正4年越後国に内乱が起り、守護代長尾為景討伐のため上杉顕定が出陣すると、景春は為景と呼応して永正7年顕定の養子憲房を破り白井城を回復した。顕定より和議が出されたが承知せず、反山内を貫いた。

永正11年8月24日、72歳で没した。死去の場所は不明であるが、凍峰院殿大雄伊玄庵主が法名であり、空恵寺（北群馬郡子持村上自井）の長尾家累代墓地に墓石がある。（唐沢定市）（『国史大辞典』）

## 鉢形城（はちがたじょう）

埼玉県大里郡寄居町大字鉢形字城にあった城。荒川と深沢川の合流地点の河岸段丘上に位置する。複郭式平城。平安時代末期に平将門が砦を築いたとか、畠山重忠が城を築いたとか伝えるが未詳。室町時代の文明8年（1476）、長尾景春が当城に居城して山内上杉顕定に背き、ついで扇谷上杉定正の重臣太田道灌が同10年7月に景春を当城に攻めたことが『大田道灌状』にみえ、すでに城郭としてかなり整備されていたことがわかる。

景春にかわって上杉顕定の居城となり、上野方面や秩父口の押えとして重要な城となった。長享2年（1488）9月には万里集九が当城を訪れている（『梅花無尽蔵』）。

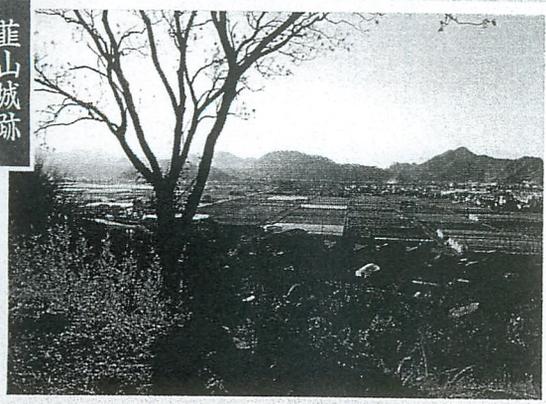
山内上杉顕定と扇谷上杉定正の対立の続くなか、永正9年（1512）、相模より北上する北条早雲と結んだ長尾景長に攻められたが、山内上杉憲房が城を奪回し、重臣藤田康邦が居城した。康邦は新興勢力の小田原北条氏に対抗して鉢形城を守ったが、天文15年（1546）の河越城（埼玉県川越市）の戦で上杉方が敗北し、北条氏康が武蔵国西北部に勢力を伸長すると、藤田康邦も氏康に下って臣下となった。永禄初年、康邦の娘と氏康の四男乙千代丸（氏邦）が婚姻し、乙千代丸が藤田氏を継いで鉢形城に入り、城を大修築して北条氏康の武蔵北部の一大拠点となった。

乙千代丸は永禄4年（1561）から鉢形城領支配を始め、同年7月6日には「翁邦挹福（きゅうほういしやうふく）」と印文を刻印した自己の朱印状を発給し、兄北条氏照の滝山城（東京都八王子市）領と同様に、本城からある程度独立した支城支配を確立した。氏邦の発給文書は現在240通余りが知られ、鉢形城を中心に上野方面にまで分布している。

永禄4年に上杉謙信、同12年に武田信玄の来攻を受けたが落城しなかった。天正10年（1582）以降、氏邦は上野国沼田（群馬県沼田市）周辺に領土を拡げ、家臣猪俣邦憲が同17年に名胡桃（なぐるみ）城（同県利根郡月夜野町）を奪取したことに端を発した豊臣秀吉の小田原攻め（小田原征伐）により、同18年6月14日、前田利家・上杉景勝・本多忠勝・真田昌幸ら3万5千余の大軍に攻められて落城、廃城となった。

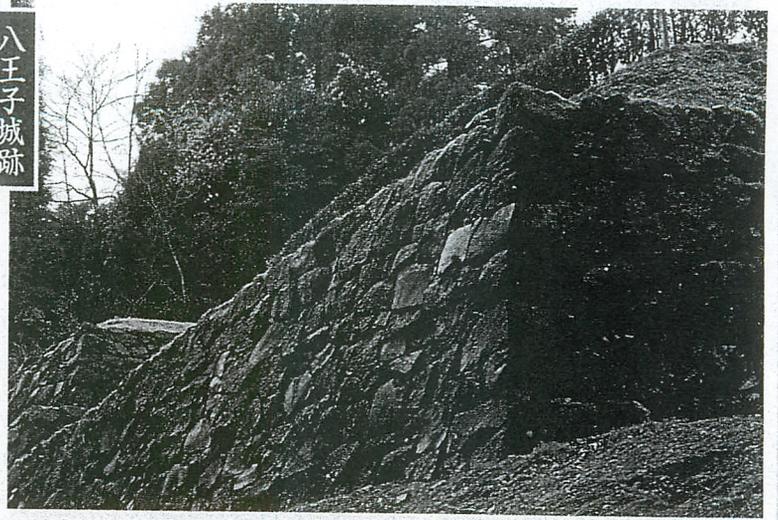
氏邦は戦後、加賀国金沢にお預けとなり、慶長2年（1597）に死去した。現在城跡には本丸・二ノ丸・三ノ丸の土塁や空濠がよく残り、深沢川をはさんで外郭がある。国史跡。田山花袋の歌碑が建っている。（下山治久）（『国史大辞典』）

葦山城跡



宗瑞の居城だった葦山城は、秀吉軍が攻めてきたとき、氏政の弟の氏規が見事な籠城戦を展開したという

八王子城跡



堅固な城だったが、城主の氏照が小田原城に行っていたこともあり、1日で落城してしまう

空堀、土塁が中世の基本

さて、最盛期には勢力が関東一円に広がった北条氏の最前線の城跡を訪ねて、力の一端に触れてみよう。

群馬県庁は33階建ての近代的なタワー。この巨大なビルが建つ一画が、戦国時代には城であったとは誰も想像できないだろう。この城は厩橋城という。前橋という地名はこの厩橋に由来する。

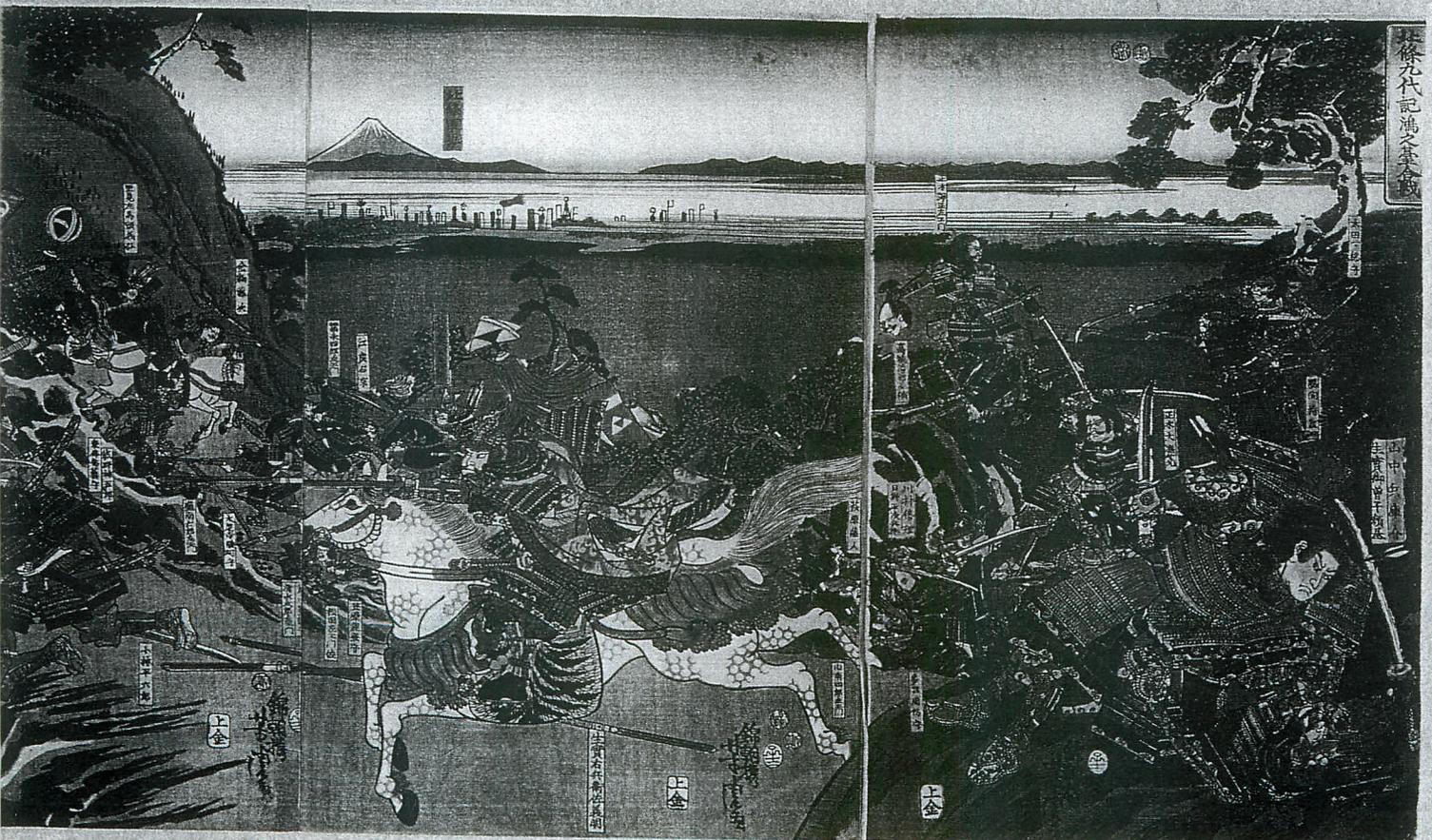
永祿3(1560)年以降、上杉謙信が関東侵攻の拠点としたが、上杉・武田・北条領国の境目として重要な位置を占め、常にその帰属が問題となっている。武田氏が滅亡すると、織田信長から関東の警固を命じられた滝川一益は厩橋城に入り、支配を展開する。それだけでもこの城の重要さが知れよう。最後は北条の支城となった。

ところで城と聞くと、一般には石垣が生まれ、天守や本丸などの堅牢な建物がある史跡を思い浮かべるだろう。しかし、それは近世のものだ。東国では中世の城には天守はなく、石垣も末期になるまでほとんど見られない。

山は木々を伐採して見通しをよくし、平坦な曲輪を造る。その周りは

北条九代記鴻之臺合戦

北条氏が安房(千葉県南部)の里見氏と、下総国(千葉県北部)市川で戦った国府台(こうのたい)合戦の錦絵。北条氏康、足利義明、里見義弘などが描かれている(船橋市西図書館所蔵)



北条九代記鴻之臺合戦



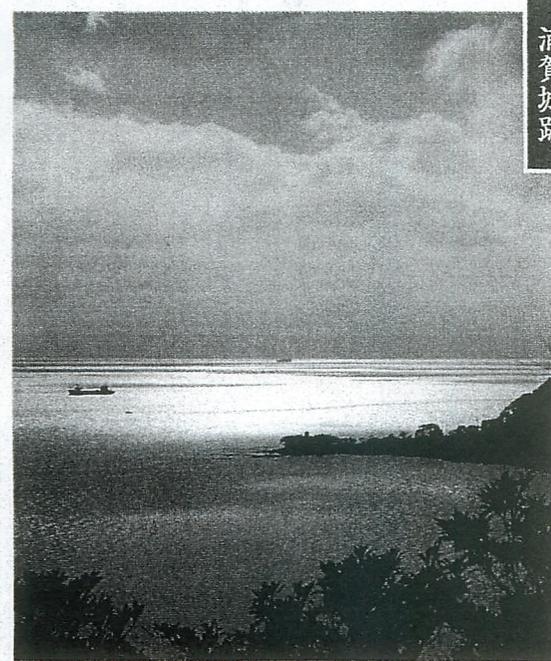
### 山中城跡

敵を掘り残した敵堀、障子の棧のように升形に壁を残した障子堀など、敵を寄せ付けないうための空堀の構造がよく残った山中城



### 逆井城跡

北条氏の北関東進出拠点として築城された。調査に基づき、櫓門、橋、堀、主殿、二層櫓などが復元されている



### 浦賀城跡

斜面を切り立たせて空堀を掘り、その土を曲輪の外縁に盛って防護壁の土塁を築く。空堀と土塁で築かれたというのが基本的な中世城郭のスタイルだ。

戦国の世から400年以上もたった現在では、城は樹木に覆われ、あるいは土地が再利用され、遺構が姿をとどめていないものも多い。しかし、中には城址公園や歴史公園として整備され、発掘復元した往時の遺構を見られるものもある。

散策しながら中世を楽しむ

厩橋城から始めた北条氏最前線の城巡り。今回訪ねたのは、初代宗瑞が築城し、終生居城とした伊豆の韮

山城(伊豆の国市)と、三代氏康の築城で、西の防備の要であった山中城(三島市)。小田原より東に打って出た宗瑞が、相模の有力武士団の三浦氏を滅ぼした新井城と三崎城(共に三浦市)。そして、安房里見氏への備えに築かれた水軍の要害・浦賀城(横須賀市)。

北関東では厩橋城と並び、軍事上の重要拠点だった沼田城(沼田市)。城主・北条氏繁が常陸の佐竹氏や多賀谷氏と対峙した逆井城(坂東市)。四代氏政の弟で築城の名手、氏照の手になる石垣造りの八王子城の9城である。

往時の雰囲気をよく伝えているのは、韮山城、山中城、浦賀城、逆井

城、八王子城といったところか。中でも山中城は、発掘した遺構を保全し公園としているので、曲輪の配置がよく分かり、障子堀や敵堀など見ることができ、西の曲輪からの富士山の眺望が抜群だ。

逆井城は学術調査に基づき、櫓門、土塀、櫓門、木橋などの建築物も復元されており、戦国の城を体感できる城址公園だ。

北条氏五代の末期に築かれた八王子城は、関東では珍しく石垣を用いた主殿・会所跡が麓にあり、その

城跡に立つと、北条氏が敵対していた里見氏の領地、房総半島南部がよく見える。敵地から船が出ればすぐに分かる距離だ

規模に驚かされる。本丸は山頂にあり、天気がよければ東京都心を見渡せる。

また、浦賀城、新井城は目立った遺構はないが、海の眺望が気持ちよい。いずれも散策を楽しみながら、北条時代の空気に触れられる場所だ。



【八王子城跡】 所八王子市元八王子町3-2715-2(管理棟) 交JR[高尾駅]からバスで「雲国前」下車 徒歩約15分。土・日・祝日のみ、「八王子城跡」行きが運行 ☎042・620・7265(八王子市生涯学習スポーツ部文化財課) ※9:00~16:00(受付は管理棟で15:30まで)の間、ボランティアガイドが解説しながら案内

【山中城跡】 所静岡県三島市山中新田 交JR[三島駅]から元箱根港行きバスに乗り「山中城跡」下車 徒歩約1分 ☎055・971・5000(三島市観光協会)

【逆井城跡】 所茨城県坂東市逆井1262 交JR[東京駅]から高速バス岩井行きに乗り「岩井局前」下車、車で約20分 ☎9:00~16:00(公園は開放) ☎0297・20・8666(坂東市観光協会)

【浦賀城跡】 所神奈川県横須賀市東浦賀2-21-25(叶神社) ※叶神社裏山が城跡 交JR[横浜駅]で京浜急行に乗り換え「浦賀駅」から徒歩約15分 園境内自由 ☎046・841・5300(叶神社)

# 鉢形城公園フィールドマップ



県指定  
水のゆ  
玉淀と

樹木展示  
約680種  
がさま

桜並木  
参道がソメイヨシノ  
の並木になっていま  
す。

**史跡範囲**

- 凡例
- 土 塁
  - 堀
  - 川
  - QRコード  
音声ガイド付看板

※現地の看板やこのパンフレットのQRコードにて  
音声ガイドを聞くことができます。

## 鉢形城の歴史

鉢形城跡は、戦国時代の代表的な城郭跡として、昭和7年に国指定史跡となりました。城の中心部は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上に築かれていて、天然の要害をなしています。この地は、交通の要衝に当たり、上州や信州方面を望む重要な地点でした。

鉢形城は、文明8年(1476)関東管領であった山上上杉氏の家臣長尾景春が築城したと伝えられています。後に、この地域の豪族藤田康邦に入婿した、小田原の北条氏康の四男氏邦が整備拡充し、現在の大きさとなりました。関東地方において有数の規模を誇る鉢形城は、北関東支配の拠点として、さらに甲斐・信濃からの侵攻への備えとして重要な役割を担いました。

天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、後北条氏の重要な支城として、前田利家・上杉景勝等の北国軍に包囲され、攻防戦が展開されました。1ヶ月余りにおよぶ籠城の後、北条氏邦は、6月14日に至り、城兵の助命を条件に開城しました。

開城後は、徳川氏の関東入国に伴い、家康配下の成瀬正一・日下部定好が代官となり、この地を統治しました。

名勝 玉淀  
るやかに流れる様を玉の色に見立てて、名付けられた風光明媚な景勝地です。

林  
もの国内・外国産の樹木を見ることが出来ます。



町の花 カタクリ群生地  
3月下旬～4月上旬まで  
カタクリの花が楽しめます。

鉢形城復元地形模型  
1/250スケールの迫力で  
鉢形城の全貌を一望する  
ことができます。

町指定名勝 四十八釜  
深沢川の深淵に自然の摂理が生み出した奇景です。



花木園  
山野に自生する花木約210種が  
植栽されており、四季折々の花  
や紅葉を楽しむことができます。

至  
川  
原

